本2024

令和六年度入学試験

国語 解答紙（その1）

採点欄

氏名

受験番号

合計点

一

問一

ア 克明　イ ぼんよう　ウ しゅっぽん　エ 遍歴

問二

ひとつずつ言葉を手繰りながら舐めるように繰り返し読むことによって、母語話者では捉えることのできない、テクストの新たな表情を発見することができる、という意義。

問三

外国文学を学ぶ際、外国語を習得してものを読み書こうとするのだが、その外国語学習により世界を見る新しい方法を身に付けることになるのだということを心底実感したこと。

問四

作家がすべ〜を知ること

問五

心のもっとも奥ふかくに秘匿されている自己

問六

言葉の端々に宿る微妙な語感に至るまで感知しうるがゆえに、自分で直視するに堪えない愚かさや、認めたくない欠点・弱点などといった瑕疵を赤裸々に表現することを避ける、検閲の機能も果たしている言語。

問七

〔文章Ⅰ〕で「わたし」は、母語によって本当の姿を秘匿されている存在であると捉えられており、〔文章Ⅱ〕で「わたし」は、「今、ここにいる自分」という軛からのがれられない存在であると捉えられている。そして両者に共通しているのは、外国語や小説といった、自己を外在化・相対化するものによって眺め直されることで、「わたし」は自己を束縛するものから解放されて、新しい自己の可能性を自分自身で創造することが可能な点である、と筆者は考えている。

本2024

令和六年度入学試験

国語 解答 紙（その2）

採点欄

氏名

受験番号

合計点

二

問一

ア 受身　イ 尊敬

ウ 完了　連体形

問二

(1) 隠れでもしたい

(2) 明日、田植えをするから約束通り来てほしいと複数の人から依頼が重なると困るから。

問三

一カ所だけならまだしも、十九カ所の田植えの約束まで果たせないので、どこかへ逃げようとは思うものの、長年頼りにしてきた観音を捨てていけないと思う気持ち。

問四

女が最初の依頼の田植えに出向いた日の夕方、戸を叩く音に他の依頼者から苦情が来たと思ったが、田植えのお礼に料理を届けに来ただけだったから。

問五

貧乏で知り合いもいない女が、たいそう生活に困り、そのことを気の毒に思った観音が二十人の田植えの約束のうち女が果たせなかった十九人の田に出向き、女に代わってきちんと田植えをして回ったから。

問六

自分が二十人に田植えの口約束をし、すべて同じ日に頼まれて困っていたところをかわいそうに思った観音が代わりに田植えをしてくれたことについて、観音に田植えをしてくれたという苦しい目に合わせ、十九カ所も歩き回らせてしまったことについて言いようもなく情けなく、また観音の慈悲の心をありがたく思う気持ち。

三

問一

① なんぞや　② それ　③ よく　④ なし

問二

A 鋭い武器を手にし

B 敵地を侵略する

問三

いままで一度も馬を駆って戦場を走り回り戦うこともなく、ただ文書を書き、議論するだけで戦うことはなかった

問四

功忘るべからざるなり

問五

他の家臣が指示を受けて敵を討つにとどまるのに比べて、蕭何は軍勢を指揮する点でも功績が大きく、また個人ではなく一族の数十人をあげて高祖に仕えている点も、一般の家臣以上に大きな功績を果たしているから。